

平成26年度
川越市プレミアム付き地域商品券事業

補助事業成果報告書（概要版）



平成27年3月
川越商工会議所

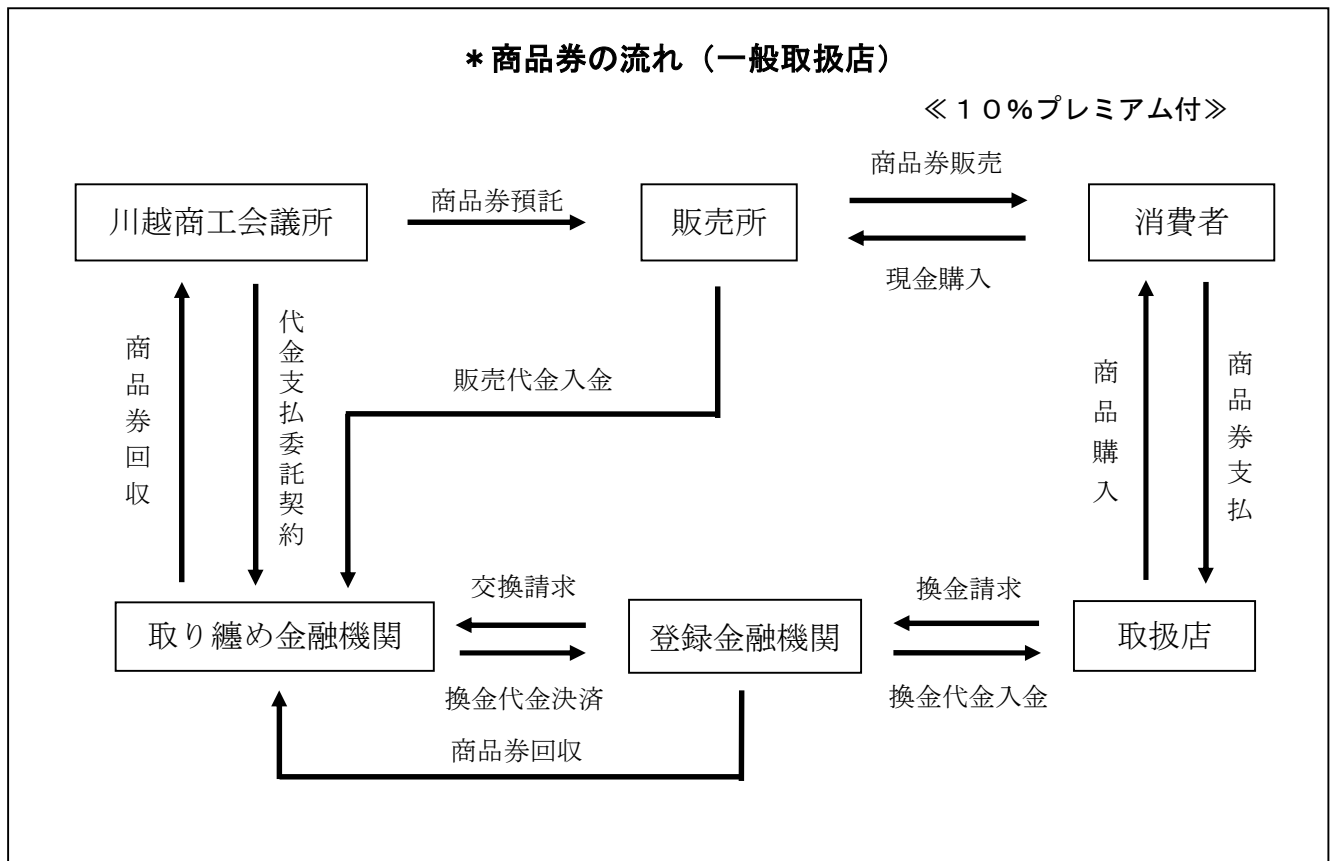
目 次

1 補助対象事業の実施状況		
(1) 事業概要	1
(2) 販売状況	2
(3) 取扱店の状況	3
(4) 使用状況	5
(5) 実績報告書	7
2 アンケート		
(1) 取扱店アンケートの回答結果	8
(2) 利用者アンケートの回答結果	10
4 成果・課題について		
(1) 消費創出効果	14
(2) その他の効果等	16
(3) 今後の課題	16
5 統括	17

1 補助対象事業の実施状況

(1) 事業概要

- | | |
|-----------|--|
| 1. 事業名称 | 川越市プレミアム付き地域商品券事業 |
| 2. 発行団体 | 川越商工会議所・川越商店街連合会・川越商店街連合会事業協同組合 |
| 3. 発行日 | 平成26年10月2日(木) |
| 4. 有効期間 | 平成26年10月2日(木)～平成27年1月15日(木) |
| 5. 換金期間 | 平成26年10月6日(月)～平成27年1月30日(金) |
| 6. 発行総額 | 1億1000万円 |
| 7. 発行券 | 1冊 10,000円
【A共通券】1,000円×8枚
【B専用券】500円×6枚 |
| 8. 発行冊数 | 10,000冊 |
| 9. 購入限度額 | 5万円(1人あたり) |
| 10. 使用限度額 | 10万円(1店舗、1回につき) |
| 11. 換金手数料 | 取扱事務手数料1%を換金時に差し引き徴収する
※1,000円券(A共通券)は1枚につき990円で換金
※500円券(B専用券)は1枚につき495円で換金 |



(2) 販売状況

10月2日(木)、川越商工会議所丸広他、特設販売所は1ヶ所・常設販売所20ヶ所にて販売。販売開始日に1億1千万円が完売しました。

【特設販売店】

あずまや横特設販売所(川越市角栄商店街内)

【常設販売店】

地区	商品券販売場所	地区	商品券販売場所
本庁	川越商工会議所	本庁	セブンイレブン川越菅原町店
	泰玉スガ人形店		セブンイレブン川越仙波町2丁目店
	松本しょうゆ 小売部		稲葉屋本舗
	吉岡金物店		きもの つるや
	くらづくり本舗 久保町本店		タイヤガーデン川越
	隆清堂	霞ヶ関北	くすりユニオン霞ヶ関店
	セブンイレブン川越六軒町店		きものや 嗟が野
	小江戸蔵里		(株)電化センターマエダ
	和紙の山田	高階	新河岸駅前 いけとめ
	文具のキムラヤ		大野洋品店
川越第一ホテル			

【販売の様子】



特設販売所



川越商工会議所



泰玉スガ人形店



小江戸蔵里

(3) 取扱店の状況

商品券の取扱店舗の対象は、地域商業の活性化という事業の趣旨により、川越市内に店舗を有し、直接消費者に商品やサービスを提供する市内全事業者を対象に取扱店を募集しました。

最終的に 340 店舗の申込みで、平成 19 年 6 月 1 日現在の商業統計調査の市内小規模店舗数 2,123 店に対しておよそ 16.0%の参加率となりました。取扱店 340 店舗のうち、売場面積 1,000 m²未満の小売店舗は 314 店舗で、全体の 92.4%を占め、大型店舗は 26 店舗 7.6%であった。

また、商店街別の取扱店舗数では、川越市角栄商店街振興組合・川越新富町商店街振興組合・川越一番街商業協同組合・大正浪漫夢通り商店街振興組合等、法人化している商店街の参加店舗数が比較的多い傾向となっております。

店舗規模別内訳

	加盟店数	割合
一般取扱店	314 店舗	92.4%
大型店 (1,000 m ² を超える店舗)	26 店舗	7.6%
合計	340 店舗	100%

商店街別内訳 (川越商店街連合会に加盟する商店街)

商店街名	加盟店数	割合
清水町中央通り商店会	5	1.47%
新河岸商栄会	1	0.29%
川越市角栄商店街 (振)	31	9.12%
かわつる商店会	0	0.00%
かすみ商店睦会	0	0.00%
新宿・旭町商栄会	3	0.88%
川越駅前商店会	0	0.00%
川越駅東口商店会	19	5.59%
川越新富町商店街 (振)	33	9.71%
川越サンロード商店街 (振)	19	5.59%
中原町商店会	6	1.76%
アトレテナント会	12	3.53%
八幡通り商店会	0	0.00%
川越西口商店街	3	0.88%
川越一番街商業 (協)	27	7.94%
大正浪漫夢通り商店街 (振)	17	5.00%

立門前商栄会	4	1.18%
仲町商店街	11	3.24%
川越名店街	16	4.71%
元町一丁目商和会	3	0.88%
川越菓子屋横丁会	2	0.59%
鐘つき堂商店会	4	1.18%
喜多院不動通り商店街	8	2.35%
中央通り商店街	4	1.18%
中央通り二丁目商店会	1	0.29%
広小路商栄会	2	0.59%
連雀町繁栄会	6	1.76%
六栄会	9	2.65%
その他一般取扱店	68	20.00%
大型店 (1,000 m ² を超える店舗)	26	7.65%
合計	340店舗	100%

(4)使用状況

発行総額 1 億 1 千万円のうち、取扱店で使用后、換金請求された商品券は 1 億 945 万 7 千円で率にして、99.51%であった。

店舗規模別の使用状況では、売場面積 1,000 m²以内の一般取扱店での使用割合は全体の 44.55%であり、50%を超えなかったものの、一般取扱店専用券（B券）を設けた効果がうかがわれる。

また、商店街別の使用状況では、取扱加盟店舗数が多い商店街での使用割合が高い傾向にある。

販売・換金状況

	枚数	金額
販売（発行枚数）	140,000 枚	110,000,000 円
換金枚数	139,200 枚	109,457,000 円
未換金	800 枚	543,000 円
換金率	99.43%	99.51%

店舗規模別内訳

	使用金額	割合
一般取扱店（A券）	19,023,000 円	17.38%
一般取扱店（B券）	29,743,000 円	27.17%
大型店	60,691,000 円	55.45%
合計	109,457,000 円	100%

	使用枚数	割合
一般取扱店（A券）	19,023 枚	13.67%
一般取扱店（B券）	59,486 枚	42.73%
大型店	60,691 枚	43.60%
合計	139,200 枚	100%

	使用枚数	割合
A券（大型店＋一般取扱店）	79,714 枚	57.27%
B券	59,486 枚	42.73%
合計	139,200 枚	100%

商店街別内訳（平成26年10月2日から平成27年1月30日）

商店街名	使用金額	使用枚数	割合
大型店（26店舗）	60,693,500円	60,696枚	55.45%
その他一般取扱店	14,134,000円	23,430枚	12.91%
川越市角栄商店街（振）	10,201,500円	14,559枚	9.32%
川越新富町商店街（振）	6,631,000円	11,568枚	6.06%
川越サロード商店街（振）	2,968,000円	4,625枚	2.71%
喜多院不動通り商店街	2,766,000円	4,415枚	2.53%
大正浪漫夢通り商店街（振）	2,225,000円	3,703枚	2.03%
川越駅東口商店会	1,828,000円	3,143枚	1.67%
川越一番街商業（協）	1,492,500円	2,568枚	1.36%
中原町商店会	1,450,000円	2,192枚	1.32%
六栄会	1,008,500円	1,746枚	0.92%
鐘つき堂商店会	925,500円	1,422枚	0.85%
川越名店街	654,000円	1,137枚	0.60%
仲町商店街	598,000円	1,017枚	0.55%
清水町中央通り商店会	492,500円	725枚	0.45%
アトレテナント会	370,000円	644枚	0.34%
中央通り商店街	329,500円	449枚	0.30%
連雀町繁栄会	199,000円	325枚	0.18%
元町一丁目商和会	125,500円	197枚	0.11%
川越西口商店街	110,000円	193枚	0.10%
川越菓子屋横丁会	77,000円	126枚	0.07%
広小路商栄会	48,500円	95枚	0.04%
立門前商栄会	44,500円	85枚	0.04%
新河岸商栄会	39,000円	78枚	0.04%
新宿・旭町商栄会	38,000円	50枚	0.03%
中央通り二丁目商店会	8,000円	12枚	0.01%
合 計	109,457,000円	139,200枚	100.00%

(5)収支報告書

川越市プレミアム付き地域商品券事業の成果及び収支決算は次の通りです。

1. プレミアム付き地域商品券事業は、市内活性化対策として市内経済的波及効果があった。
2. 市内商店街への顧客誘致と需要喚起を図り、取扱商品の販売促進が実現された。
3. 短期間での発行により、各店の売上促進が実現された。
4. A券（共通券）・B券（専用券）を発行したことにより、一般取扱店での使用割合が一定割合確保された。（全体の 44.55%）
5. 全体の換金率は99.51%となった。
6. 販売初日に商品券が完売し、プレミアム商品券の需要が高いことがうかがえる。

決算の状況

収入

区 分	金 額
商品券販売額	100,000,000円
市補助金	14,450,636円
換金手数料収入	1,094,570円
登録料収入	94,750円
雑収入	4,861円
負担額	848,830円
合 計	116,493,647円

支出

区 分	金 額
商品券換金額	109,457,000円
商品券印刷費	853,200円
広告宣伝費	1,098,476円
会議費	32,076円
通信費	392,801円
消耗品費	26,577円
取扱手数料	1,266,840円
換金経費	270,744円
雑費	4,320円
商品券関係費	930,403円
印刷費	349,747円
予備費	0円
人件費	1,811,463円
合 計	116,493,647円

3 アンケート

(1)取扱店アンケートの回答結果

商品券使用期間が終了した後、取扱加盟店 340 店舗に対し郵送によるアンケート調査を実施し、144 事業所より回答があり、回答率は 42.4%となった。

各店舗において、どの程度商品券が使われたかに関する設問では、売上に占める商品券の使用割合 5%未満が多数を占め、商品券が広く加盟店で使用されたことがうかがえ、幅広い業種の取扱店で使用されていることがわかった。

そのような中、自転車や家電製品等の耐久消費財を取扱う店舗では、使用割合が高いところも散見されるなど、商品券が新たな消費の動機づけとして、一定の効果があつたことがうかがえる。

商品券の効果に関する設問では、「顧客とのコミュニケーション強化」が 28.4%、「新規の顧客獲得」が 15.5%、「商店街の連携強化」が 12.2%、「売上増加」が 8.8.%という効果が挙げられている。一方、「効果なし」は 30.4%となり、全体の約 3 割の店舗が効果を感じないという結果になった。

これは、過去 2 回実施した際と比較（それぞれ発行額は 3 億 3 千万円で実施）して、本年度の発行額が 1 億 1 千万円と少なく、効果が限定的であつたことがうかがえる。

商品券の有効期間については、「ちょうどよい」が 62.6%、「長い」が 20.1%、「短い」が 11.5%、「その他」が 5.8%との回答となった。

発行券に関しては「A 券を増やす」が 10.3%、「B 券を増やす」が 23.8%、「ちょうど良い」が 61.9%、「その他」が 4.0%という結果となり、B 券（一般取扱店専用券）を設ける必要性がうかがえる。

今後このような事業を実施された場合、取扱店として参加したいかどうかの質問に対して、「参加したい」66.7%、「参加したくない」5.9%、「どちらともいえない」が 27.4%という結果となった。

また、多くの取扱店からの意見では、今回の商品券は発行額が少なく、買えなかった人が多かつたのではないかとの意見が挙がった。

川越市プレミアム付き地域商品券 取扱店アンケート

1. あなたの店舗について伺います。該当するものにチェックをお願いします。

(1) 店舗の規模は次のいずれに該当しますか？

- 大型店（1,000㎡を超える店舗） 一般取扱店（1,000㎡以内の店舗）

(2) 業種は次のいずれに該当しますか？

- 小売業 飲食業 サービス業 百貨店・専門店・総合スーパー
 ホームセンター ミニスーパー（1,000㎡以内のスーパー）
 その他（具体的に： _____）

(3) 主にどのような商品・サービスを提供していますか？（複数回答可）

- 食料品全般 精肉 鮮魚 青果 和・洋菓子 米穀類 酒類
 乾物類 衣料品 呉服・服地 靴・履物 身の周りの小物 薬・化粧品
 書籍・文具 時計・めがね 宝飾類 陶器 金物 書画 家電製品
 自転車 燃料 宿泊サービス 飲食サービス 理美容サービス
 娯楽サービス 医療サービス
 その他（具体的に： _____）

2. 今回の商品券について伺います。該当する口にチェックをお願いします。

(1) あなたのお店で商品券はどの程度使われましたか？

- 使用なし 売上の5%未満 売上の10%未満 売上の15%未満
 その他（およそ _____ %）

(2) 今回の商品券の効果について次のうち、該当するものはありますか？

- 効果なし 新規の顧客獲得 商店街の連携強化 売上増加
 顧客とのコミュニケーション強化
 その他（具体的に _____）

(3) 商品券の有効期間（平成26年10月2日から平成27年1月15日）についてはどうですか？

- 長い 短い ちょうど良い
 その他（具体的に _____）

(4) 発行券（A券共通券・1000円/8枚・B券専用券・500円/6枚）はどうですか？

- A券を増やす B券を増やす ちょうど良い
 その他（具体的に _____）

3. 期間中の売上金額について伺います。（金額は概算で結構です。また前年同時期の金額を記載ください）

	10月売上額	11月売上額	12月売上額	1月売上額
平成25年10月 ～26年1月	円	円	円	円
平成26年10月 ～27年1月	円	円	円	円

4. 同様な事業が実施された場合、また取扱店として参加したいと思いますか？

- 参加したい 参加したくない どちらとも言えない

今回の商品券に関してご意見がありましたらご記入ください。

※ ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒にて、平成27年2月6日までにご返送ください。

プレミアム付き地域商品券「わくわく川越商品券」
利用者アンケート回答結果（アンケート数＝32）

設問1 「わくわく川越商品券」を何で知りましたか。（複数回答可）

- ア 市広報紙（広報川越）
- イ 市等のホームページ
- ウ 自治会回覧
- エ 新聞の折り込みチラシ
- オ 取扱店等に掲示されたポスター・チラシ
- カ その他（具体的に記入してください）

【回答結果】

回答件数は、49件。内訳は下記のとおりである。

- ア 市広報紙（広報川越）・・・22件（45%）
- イ 市等のホームページ・・・8件（17%）
- ウ 自治会回覧・・・4件（8%）
- エ 新聞の折り込みチラシ・・・7件（14%）
- オ 取扱店等に掲示されたポスター・チラシ・・・8件（16%）
- カ その他（具体的に記入してください）・・・0件（0%）

設問2 「わくわく川越商品券」を購入した理由は。（複数回答可）

- ア 節約のため
- イ 購入を勧められたから
- ウ 地域経済活性化につながると考えたから
- エ その他（具体的に記入してください）

【回答結果】

回答件数は47件。内訳は下記のとおりである。

- ア 節約のため・・・21件（45%）
- イ 購入を勧められたから・・・5件（11%）
- ウ 地域経済活性化につながると考えたから・・・20件（42%）
- エ その他（具体的に記入してください）・・・1件（2%）

なお、「エ その他」については、「普段の買い物に利用しやすいと思ったので」。

設問3 「わくわく川越商品券」によって買い物をするお店に変化がありましたか。（複数回答可）

- ア 普段は市外で購入していた商品を市内で購入した
- イ 普段は大型店で購入していた商品を地元（大型店以外）の商店で購入した
- ウ 商品券取扱店を利用する機会が以前より増えた

- エ 特に変化なし
- オ その他（具体的に記入してください）

【回答結果】

回答件数は43件。内訳は下記のとおりである。

- ア 普段は市外で購入していた商品を市内で購入した・・・11件（26%）
- イ 普段は大型店で購入していた商品を地元（大型店以外）の商店で購入した・・・15件（35%）
- ウ 商品券取扱店を利用する機会が以前より増えた・・・11件（26%）
- エ 特に変化なし・・・6件（13%）
- オ その他（具体的に記入してください）・・・0件（0%）

設問4 「わくわく川越商品券」取扱期間（10月から1月）の消費支出額に変化はありましたか。

- ア 増加した
- イ 変わらなかった
- ウ プレミアム分節約することができた
- エ その他（具体的に記入してください）

【回答結果】

回答件数は31件。内訳は下記のとおりである。

- ア 増加した・・・12件（39%）
- イ 変わらなかった・・・9件（29%）
- ウ プレミアム分節約することができた・・・10件（32%）
- エ その他（具体的に記入してください）・・・0件（0%）

設問5 1万1千円の内訳について、1,000円券が8枚と500円券が6枚だったことは、どう思いますか。

- ア 適当な設定だと思う
- イ その他（具体的に記入してください）

【回答結果】

回答件数は30件。内訳は下記のとおりである。

- ア 適当な設定だと思う・・・26件（87%）
- イ その他（具体的に記入してください）・・・4件（13%）

なお、「イ その他」については、

「500円券の割合を増やしてほしい」（2件）、「500円券の消費が困った」、「おつりが出ないのだから、すべて500円券にしてほしい」。

設問6 地域商店街活性化のために大型店で使用できない券を入れたことについて、どう思いますか。

- ア いいと思う
- イ 店舗規模で使用の制約をしない方がいい
- ウ その他（具体的に記入してください）

【回答結果】

回答件数は32件。内訳は下記のとおりである。

- ア いいと思う・・・19件（59%）
- イ 店舗規模で使用の制約をしない方がいい・・・13件（41%）
- ウ その他（具体的に記入してください）・・・0件（0%）

設問7 「わくわく川越商品券」をまた使いたいと思いますか。

- ア そう思う
- イ そうは思わない
- ウ その他（具体的に記入してください）

【回答結果】

回答件数は32件。内訳は下記のとおりである。

- ア そう思う・・・30件（94%）
 - イ そうは思わない・・・1件（3%）
 - ウ その他（具体的に記入してください）・・・1件（3%）
- なお、「ウ その他」については、「使いたいが現状では購入を増やせない」。

設問8 その他「わくわく川越商品券」について、ご意見がありましたらお願いします。

【回答結果】

回答件数は16件（無回答16件）。回答内容は以下のとおりである。

- 「商品券を購入する限度額をもっと上げてほしい。」
- 「使えるお店・販売するお店を万遍なく広げてほしい。」
- 「近所で使えるお店、売っているお店があまりなく結局駐車場のある大型店舗での利用が多かった。」
- 「すぐに売り切れてしまったので、発行部数を増やしてほしい。」
- 「500円券を使える店舗が少ない。」
- 「発売日午前中に売り切れ買えない。販売方法を考えるべきである。」
- 「買えない人がたくさんいたので、もう少し枠を大きくしてほしい。」
- 「1人5冊と制限しないでほしい。販売冊数を大幅に増やしてください。」
- 「次回を楽しみにしています！」

「商品券の発行を再度行い、地域経済の活性化を推進してほしい。」

「利用期間が短い。」

「500円の利用店舗がわかりにくいので、店頭にわかりやすいマーク等の設置をしてほしい。スーパーのテナントで500円券が使えないところがあったりと、500円券の使い勝手が悪い。」

「地域活性化につながりそう。またぜひお願いします。」

「もっと多くの店舗の協力が得られると良いと思う。」

「地元のスーパーが加盟店でなかったのが残念であった。」

「大型店舗以外の店舗での使用金額の制限は外してもいいのではないか。」

「店舗規模で使用する制限をしないで、すべて500円にしてほしい。取扱期間を2月末までにしてほしい。」

「また実施してほしい。」

4 成果・課題について

(1)消費創出効果

新たな消費創出効果について、取扱店アンケート中、売上金額の回答があった80件のデータを基に推計を試みた。

《推計方法》

回答80件を店舗規模別に分類、売場面積1,000㎡を超える大型店舗の回答12件、1,000㎡以内の一般取扱店の回答68件により加盟340店舗全体の消費創出額を推計した。

＜大型店＞

大型店アンケートデータ12件の25年度及び26年度の各月平均額を算出し、平均額に大型店の加盟店舗数26を乗じ、大型店加盟店全体の25年度及び26年度の各月売上額を算出。(表1：①欄)

さらに、①欄「25年度売上算出額」に前年比増減率（経済産業省 商業動態統計 商業販売額前年（同月）比増減率）を乗じ、26年度売上予定額を算出。(表1：②欄)

①欄「26年度売上算出額」と②欄「26年度予定売上額」との差額（表1：③欄）を大型店における消費創出効果と推計した。

【表1】消費創出効果推計（大型店）

単位：千円

	①		②	増減率	③
	25年度(算出)	26年度(算出)	26年度(予定)	前年比	効果
10月	6,901,934	6,887,830	6,901,934	0.0%	▲14,104
11月	8,823,757	8,597,668	8,920,818	1.1%	▲323,150
12月	9,858,235	9,972,671	9,868,093	0.1%	104,578
1月	8,326,275	7,851,456	8,326,275	0.0%	▲474,819
合計	33,910,201	33,309,625	34,017,120		▲707,495

＜一般取扱店＞

大型店同様に、一般取扱店アンケートデータ68件の25年度及び26年度の各月平均額を算出し、平均額に一般取扱店の加盟店舗数314を乗じ、一般取扱店加盟店全体の25年度及び26年度の各月売上額を算出。(表2：①欄)

さらに、①欄「25年度売上算出額」に前年比増減率（経済産業省 商業動態統計 商業販売額前年（同月）比増減率）を乗じ、26年度売上予定額を算出。(表2：②欄)

①欄「26年度算出売上額」と②欄「26年度予定売上額」との差額（表2：③欄）を一般取扱店における消費創出効果と推計した。

【表 2】 消費創出効果推計（一般取扱店）

単位：千円

	①		②	増減率	③
	25年度(算出)	26年度(算出)	26年度(予定)	前年比	効果
10月	814,139	924,348	825,537	1.4%	98,811
11月	806,979	776,924	811,014	0.5%	▲34,090
12月	818,183	860,018	819,001	0.1%	41,017
1月	634,753	592,069	622,057	▲2.0%	▲29,988
合計	3,074,054	3,153,359	3,077,609		75,750

<全体>

大型店（表 1）及び一般取扱店（表 2）を集計し全体（表 3）の消費創出効果を集計した。

【表 3】 消費創出効果推計（全体）

単位：千円

	①		②	増減率	③
	25年度(算出)	26年度(算出)	26年度(予定)	前年比	効果
10月	7,716,073	7,812,178	7,727,471		84,707
11月	9,630,736	9,374,592	9,731,832		▲357,240
12月	10,676,418	10,832,689	10,687,094		145,595
1月	8,961,028	8,443,525	8,948,332		▲504,807
合計	36,984,255	36,462,984	37,094,729		▲631,745

消費創出効果推計額 ▲631,745千円

(内訳)

・大型店 ▲707,495千円

・一般取扱店 75,750千円

商品券発行による消費創出効果額は、全体ではマイナスとなり創出効果は数字として現れなかったが、大型店を除く一般取扱店では、プラスとなり、消費創出に一定の効果があったと考えられる。

(2) その他の効果等

アンケート等の結果からは、その他の効果として、事業者側にとっては、「新規顧客の獲得につながった」との回答も目立ち、使用状況も一般小売店で一定割合が使用された結果から、地域に一定の消費誘導効果があったと思われる。

また、「新規の顧客獲得」「顧客とのコミュニケーション強化」「売上増加」「商店街の連携強化」との回答が全体の7割を占め、限定的ではあるが、一般小売店への消費誘導効果と「顧客と商店」との繋がりへの支援策としては、効果があったと思われる。

しかし、その反面、効果を感じられなかった店舗も3割あるなど、課題が残る。

(3) 今後の課題

今回の商品券は、前回実施時と同様、A券を1,000円、B券を500円と分けた結果、比較的幅広い小売店で使用された。

取扱店アンケートによると、前回（平成23年度）と比較し、「顧客とのコミュニケーション強化」や「今後も参加したい」が増加した一方、「効果なし」も増加するなど、発行額が少なかったことにより効果が限定的であったことがうかがえる。

商品券の発行額については、販売開始日に完売し、多くの市民の方が購入できなかったことや、平日昼間という時間帯からの販売開始の為、購入できる層が限定的であった為、発行額が少なかったことに対する意見を多くいただいた。

商品券の販売体制については、販売所の地域が集中していた為、購入できなかった方が多く、川越市全域で販売ができる体制を整えなければならないと考えられる。

販売開始日については、誰でも公平に購入できる曜日や時間帯を設定することや、平日昼間の時間帯からの販売開始とする場合には、事前予約システムの導入等を検討し、公平に購入できる機会を創出する必要があると感じられる。

商品券の換金については、金融機関により、実際に個店に入金するまでの日数がかかるなどの意見も多く、再度金融機関との調整が必要だとうかがえる。

5 総括

今回の商品券発行事業は、消費創出効果、消費行動の誘導により地域経済、特に一般取扱店の活性化に一定の効果があったと思われる。

一般取扱店の10月の売上金額については、前年同月比13.5%増となった。しかしながら、大型店を含む全体としては、対前年同月比でマイナスとなるなど、発行総額の規模的な問題もあるが、全体としては、商品券発行の効果は限定的だったと感じられる。

また、購入できなかった方から多くのご意見をいただくなど、販売方式を再検討するなど課題がある。

取扱店は前回よりも少ない340店舗(前回372店舗)で実施し、商品券利用者から、取扱店を増やして欲しいとの声も聞かれ、「事前PR(準備)の不足」や「換金手続き・換金手数料の負担感」等が影響したと考えられる。

次回実施する際には、取扱店募集に関する周知を強化し、多くの一般小売店に取扱店として登録していただける機会を創出する必要があると考えられる。

しかしながら、そのような中、連携の強い商店街では、参加店舗の割合が比較的高く、商品券の使用割合も高い傾向があり、積極的に取組んだ商店街では大きな成果があったことがうかがえる。